



避難所開設 まずは名簿作りから
大規模災害の際の基本です

ゆり北

第263号 (24期 第7号)

光が丘ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-11-511

発行責任者 塩 原 継 雄

避難所生活は本当に大変だ！ ゆり北防災訓練報告

十月十五日(日)、赤塚新町小学

校でゆり北防災訓練を実施しました。例年行っている訓練に加え、今年度は「避難所開設訓練」と「要援護者救出訓練」を初めて取り入れました。

首都圏の大地震は遠からず起こるといわれています。そこからの復興には、地域住民と、地域を構成するさまざまな団体・組織の協働が不可欠であるとして、東京都は今年度、地域協働復興に関する活動を行う「復興市民組織」の育成事業を立ち上げました。これは、区市町村と連携して地域の自主防災組織を活性化し、地域の防災活動の中核としての活動、更には復興時の主体的な活動を期待するものです。また板橋区は昨年度から、災害時に自力で避難することが困難な区民について、「要援護者名簿登録制度」を始めました。

ゆりの木北自治会は、結成当初から毎年独自の防災訓練に取り組み、また「防災マニュアル」を発行し、「要援護者名簿登録制度」、「障がい者理解促進事業」等にも積極的に参加してきました。このような当自治会の実績を評価した板橋区からの依頼で、今回のゆり北防災訓練が、都内自治体では初めての「要援護者支援のための総合的な防災訓練」となつた次第です。

避難訓練

「十月十五日午前十時、板橋区に震度6強の大地震発生(震源地東京湾北部、地震規模M7.3)」。住民は一時集合場所へ集合後、訓練会場に集団で避難することになっていたのですが連絡が徹底せず、三々五々、赤塚新町小学校校庭に集まりました。その中で十号棟だけは独自の訓練も行い、集団で避難しました。

十号棟の防災訓練

香田 義治

毎年「ゆり北防災訓練」に合わせて実施する「十号棟防災訓練」も今年で三回目になりました。まず、訓練の一週間前に各戸にオレンジ色のレスキュー布を配布し、地震発生直後に自宅西側ベランダから垂らすようお願いしました(要救助・安否表示の訓練)。防災訓練当日、レスキュー布確認担当者は建物西側のベランダが見渡せる位置から布が出ている部屋をチェックし、そのお宅を訪問します(救助・安否確認訓練)。ただし、レスキュー布を「助けてください」あるいは「無事です」のどちらの表示に使用するかは、まだ確定していません。昨年は「要救助」の合図としたのですが、けがをしたリタンスの下敷きになっていたから、ベランダにレスキュー布を出すことができないという意見があったからです。けが人を四階から一階まで布製の担架で搬送する訓練もしました。昨年は若い大柄の男性がけが人役で重すぎたという反省から、今年は女性にお願いし、スムーズに運ぶことができました。地震発生から二十分、訓練参加者三十四名が一階に集合したところで部屋番号を確認し、整列して小学校校庭に向かいました。十時三十分無事到着、ゆり北防災訓練に合流しました。

要援護者救出訓練

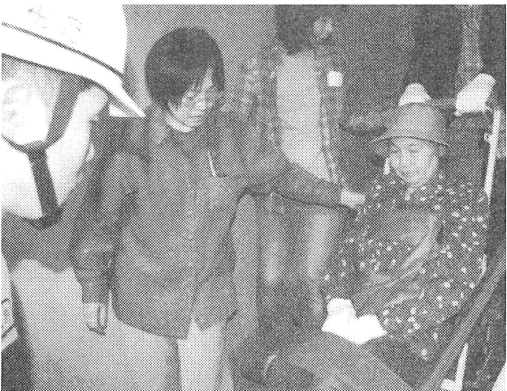
八号棟と十三号棟で要援護者二名が逃げ遅れているという想定で、区が用意した階段避難器具(イーバック)と階段避難車(キャリダン)を使用し救出する訓練を行いました。救出される役は、寺島さん(八号棟)と三井さん(十三号棟)、救

出班は八号棟が高木、茅野、清水、十三号棟は梨本、渡辺、森山の皆さんでした。八号棟の訓練の様子は、同日午後五時三十分からTOKYO MX TVで報道されました。

助けていただいてありがとう

寺島 桂子

ゆり北に大地震発生(想定)。「老女」が揺れの強さに動転、とにかく早く鍵を開けようと、ハイハイして玄関に近づきました。ドンドンとドアを叩く音がして「大丈夫ですか。怪我はありませんか」と安否の確認がありました。ドアを開け、「ヒザがガクガクして動けない」と言う救助を要請しに行ってくれて、まもなく階段避難車が運びこまれました。三ヶ所の安全ベルトを締めてもらうと避難車が動きはじめました。清水さんが車を操作して階段を下る間、高木さんと茅野さんは見守っていました。が、踊場にさしかかると「そこをどいてください！通りますから」と歯切れのよい声が耳に入り、救助に関っている人達の真剣さが伝わってきました。二階から一階におりたところで用意されていた車椅子に乗り換え、小学校正門からスロープを通り、体育館前で車椅子からおりて終点でした。(2面に続く)



救助する側される側 どちらも大変です

自治会からのお知らせ

ゆり北文化展

日時 十一月二十五日(土)
午前十一時～午後五時
十一月二十六日(日)
午前十時～午後四時
場所 赤塚新町小学校 体育館

詳細は、別途配布するチラシとポスターをご覧ください。

作品展示

搬入日時 十一月二十五日(土)
午前九時三十分～
皆様の作品をお待ちしています。

講演会

日時 十一月二十六日(日)
午後二時～三時
講師 鍵屋 一氏
前・板橋区防災課課長
現・板橋福祉事務所長

「福祉と防災」についてわかりやすくお話しいただきます。お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。

・ウィンコンサート

日時 十一月二十五日(土)
午後三時～五時
出演 ゆりの木コーラス
赤塚交響吹奏楽団 ほか
費用 無料

晩秋の夕べのひと時を、美しい音楽とともに過ごしてください。

自治会費納入のお願い

十一月は自治会費第二期(八月～十一月)の集金月です。自治会役員または世話人が集金に伺いますのでよろしく願います。

古布・古着の回収

日時 十一月二十五日(土)
二十六日(日)
午前十時～午後三時
場所 赤塚新町小学校 体育館入り口

*回収するもの

・一般家庭にある「古布・古着」で、洗濯済みのもの(古布と古着は、分けてください)

*回収しないもの

・布団、座布団、マット類(各家庭で、粗大ゴミとして処分してください)

・帽子、靴下、手袋

・ぬいぐるみ

・学生服、紳士背広上下

・カーテン

*ご希望の方には、回収した品物を無償でお分けします。

回収した「古着」のうち再利用が可能なものはリサイクルショップで販売されます。また「古布」と「再利用できない古着」は、工業用品(ウエス、雑巾、布手袋)として使われます。

年末大掃除

日時 十二月十日(日)
午前十時～十一時
詳しくは、次の会報「ゆり北」でお知らせします。

応急救護訓練

日時 十二月十七日(日)
午前十時～
場所 赤塚新町小学校
詳しくは、後日、お知らせします。

避難車はすでに一度試乗しており、恐怖感はありませんでした。振動も小さく緩やかに下ったと思いますが、踊場で方向転換するときスライと流れていかなところ、カチカチツという音が気になりました。高層棟では中層とは階段の高さも違うので、高齢者は不安を感じるかもしれません。見ているのと、実際に乗ってみるとでは違いがあると感じています。重量もあり、誰にでも直ぐ使える器具ではないと思いました。よい体験をさせて頂きました。

普段からの練習が必要です

梨本 幸男

十三号棟ではイーバックという階段避難器具を使用したの訓練でした。初めて使う器具とあって不安がありましたので、訓練の一時前前に集合して、渡辺さん、森山さんと練習をしてみました。事前に説明書はしっかりと読んでおいたのですが、実際に動かしてみると思ったより力が必要で、降りるときにガタガタ引っかかるし、汗だくで、何回か交代しながら、不安なまま練習を終わらせて十時からの本番を迎えました。

消防署、警察署の担当者も交えて三井さんの玄関前に集合、いよいよ訓練にかかります。避難を始めて、階段を降り始めると練習のときの苦労がうそのようにスムーズに行くではありませんか。四階から一階のエレベーターホールまであつという間に降りることが出来ました。三井さんも不安な感じはぜんぜんありませんといってくれました。イーバックはなかなか乗り心地もよく、団地のちよつとでこぼのある舗装を通して小学校まで無事避難訓練を終わらすことが出来ました。

避難器具の操作は難しくはないのですが、ちよつとしたコツがいりま

す。避難の際の事故を防ぐためにも、緊急時にのみ使用するのではなく、何か用意しておいて普段から使って慣れておく必要があります。それも誰が操作する必要に迫られるかわからないので、複数名が扱えるようにしておくことが必要です。ゆり北よりもつと高層の建物ではとても役に立つでしょう。

いつかくる大地震の際にはこのような訓練がきつと役に立つと思います。

煙体験



煙は案外曲者です
忍者のように忍び寄り視界を遮ります

白い煙が充満した煙体験ハウスに入り、ハンカチを持った手で鼻と口を押さえ、もう一方の手は壁を探り、体をなるべく低くして小走りに移動する。煙は想像以上に視界を遮り、これで無事に出口までたどり着けるのかと心配になる。これはただの訓練で、ほんの十メートルの距離とわかっていてさえそんな状況でした。勝手のわからないビルやホテル、地下街などで煙に巻かれたときの恐怖をちよつとだけですが感じることができたと思います。

起震車

板橋区は今年度、ディーゼル車のため排ガス規制で廃車となった従来の起震車に替えて、天然ガス車の新

車を購入、今回のゆり北防災訓練に初出動しました。

車の左側面には、区が小学生から募集したキャラクターマークで最優秀賞に選ばれた「ゆれナマズくん」が、右側面には赤塚新町小学校児童の作品二点を含む優秀賞のカメや恐竜など四点が描かれています（十月十二日付東京新聞参照）。

起震車は三畳ほどの部屋に座布団が置いてあり、一度に六人が揺れを体験できます。見ていた人によれば、五、六人がお雛様のように座ってユラユラと揺れているだけ、中にはニコニコ笑っている人もいて、緊迫感や恐怖感を感じ取れなかったそ



おーい揺れるぞ！
じゃあ構えて

うです。実際に乗った人も、弱い揺れから段々と揺れが強くなっていくので怖くはなかった、震度6弱でも、ちよつと揺れの激しい電車に乗った感じだったと話していました。

初期消火訓練

毎年欠かさず行っている消火器を使つての訓練です。いざというとき、あわてず自信を持って行動できるように、機会あるごとに何度でも訓練しておくことが大切です。なお家庭では、スプレー式の消火器が手軽で扱いやすいと聞きました。

炊き出し訓練

赤塚新町会、ゆりの木北自治会の女性たちと、小学校PTA役員、ジャオクラブなど総勢十五人ほどでグリーン広場に大鍋四個を据え、三百人分の食事を用意しました。給

食班Ⅱ女性と思われがちですが、大人数の炊き出しは鍋も大きく材料も多く、腕力も体力も必要で、この日もお父さんたちの働きが大いに役立ったようです。

訓練は成功、でも本番は？

近藤 葉子

今年は、給食係として訓練に参加しました。赤塚新町会とゆり北の有志が、事前の打ち合わせもなく山菜おこわと豚汁を作りました。お互いに自然に役割分担して、重い鍋は男性の協力も得て順調に作業が進んだと思います。

今回の経験から望むことは、男女の特性を生かした組織作りをすることと、報告、連絡、相談を疎かにせず、皆が理解して行動できるようにすることです。

それはそうと、本当に災害が起こったとき、私たちはこの日と同じようにボランティアとして協力できるでしょうか？

避難所体験



避難所生活
快適とはいかないようで

災害が発生すると、板橋区建設業協会の事業者が駆けつけ、避難所となる建物の安全を確認した後、避難所が開設されます。この日は、ブルーシートを敷き詰めた体育館におよそ三百人が入り、給食をはさんで約一時間半、NPO法人ボランティア・

市民活動学習推進センターいたばし」による「要援護者対応について」の学習会に参加しました。テーブルも、椅子も、座布団もない床に座つて過ごすのは思いのほかつらく、図らずも避難所生活の居心地の悪さを体感することになりました。高齢の参加者も多かったため、予定を早めて午後一時ごろ解散としました。参加者として、子どもには防災頭巾、大人には「かんだんトイレ袋・ベンリー袋」を配布しました。

訓練参加者は十四団体から約三百五十名、ゆり北は百二十四世帯百八十四名（ゆりの木商店会二名、三十三番街三名、団地外に居住する元自治会員二名を含む）の参加がありました。赤塚新町会では百二名が参加したとのことです。参加、ご協力くださった皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

皆様ますます元気です

「長寿を祝う集い」報告

九月十八日敬老の日午前十一時から、赤塚新町光が丘集会所一階洋室で「長寿を祝う集い」を行いました。自治会会長塩原さんの挨拶に続き、水原三喜蔵さんの音頭で乾杯しました。今年は塩原会長のアイデアで、出席者それぞれが生まれた日の朝日新聞一面のコピーをパウチして、差上げました。思いがけないプレゼント



最年長 星名正雄さん

ントに皆さん大喜びで、六十五年前から古くは九十七年前の新聞を周りの方と見せ合い、ひとしきり座が賑わいました。

お弁当の後はお楽しみみの演芸です。最初は小林武夫さん（四葉在住）による安来節のどじょうすくいです。小林さんは毎年本場に通つて修業し、現在準師範とのこと、独特の扮装と踊りに会場は大笑いでした。続いて寄席演芸「望バラエティショーで、歌、踊り、手品を楽しみました。そしてお待ちかね、ゆりの木コーラスの登場です。すばらしいコーラスを聞いてから、「故郷の空」「青い山脈」「高原列車は行く」など六曲を出席者全員で合唱しました。なごやかで楽しい会も終わりに近づき、この日の最年長、星名正雄さんの挨拶で閉会となりました。出席者は五十三名でした。

防災訓練に参加して
結城 恵子

ゆり北に住んで二十年になります。が今回初めて訓練に参加しました。先ず思ったのは、体験してみないとわからないということ。煙体験ハウスでは、作られた煙で、仲間と一緒に、うっかりすると前の人の姿が見えなくなるのです。本物だった足がすぐんで動けなくなるかもしれない。これは大変。

アンケートで非常持出袋のことを聞かれ、子どもが小さかった時は一人に一つずつあったあのリュックサックをどこにしまったのか思い出せない。これも大変。

せめて二日分程度の非常食は用意しておこうと反省しきりです。